

北九州A C A P 2012 宣言文

一方で、国連がマドリッド宣言をして、WHOが「アクティブ・エイジング」の政策枠組みを公表してから10年が経っています。

また一方で、その同じ10年間で、世界中のほとんどの国は、人口の高齢化を経験しています。高齢化の先進国では、高齢期に到達することは期待ではなく、普通の事であり、もう高齢者は決して人口の少数派を構成しているとはいえません。高齢者は、これまで以上に、すべての世代が普通に共存できるように、家族、地域や社会に貢献し続ける必要があります。すべての年齢の市民が高齢化への意識を高め、高齢者に対する偏見を減らす必要があります。

また一方で、技術革新は急速に進展していますが、技術は高齢者の自立を促進することを支え、高齢者による貢献を支えます。諸国は、全ての世代が共に暮らせる障害のない環境を作るユニバーサルデザインに関連した技術的なベストプラクティスを共有する必要があります。交通システムにおける技術革新は環境の障害をなくするときに重要な役割を果たしますが、このシステムは地域社会の若者、中年、及び高齢者のニーズを考慮する必要があります。病気、障がい、または虚弱になる高齢者にとって、介護政策は施設の選択よりも家庭や地域の選択を優遇するべきです。諸国は、国内および外国人の長期介護労働力を"成長"させる必要があります、高品質の高齢者介護を確保し、高齢者介護の労働力を最大限利用するために、複数の訓練レベルを増加させ、標準化し、調整する必要があります。

そこで、北九州A C A P 2012のために日本の北九州市に参集した者として、全ての世代が調和をもって共存するよう助け合うという目標に向けて、次のように宣言します。

- 1 都市とコミュニティは、高齢者が独立し、社会に参加し、社会に貢献し続けることを奨励し、社会的に従事し、社会貢献を続けるように、包括的統合的なシステムを開発するための技術によって設計されなければなりません。
- 2 交通システムは、手に入れやすく、障害がなく、自転車や、パークアンドライドや、快適な待合所など多くのオプションが含まれていなければなりません。公共交通システムは、住宅地や職場に加え、店舗、学校、病院などの近くに停車する必要があります。
- 3 自分自身で管理することができない高齢者のために、家族および国内外の介護者は、介護の訓練を受けるべきであり、諸国は、介護者の訓練と認証のために国際基準を開発すべきです。

2012年11月11日

北九州アジア太平洋アクティブ・エイジング会議2012参加者一同